

平成 30 年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。</li> <li>4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実を努める。</li> </ol>
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 進路指導の充実	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○ここ6年間進路実現100%が続いており、指導方法が確立・定着しつつあるが、生徒個々の進路希望に柔軟に対応し、より質の高い進路実現を追究していくべく、第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、また、第1志望での合格内定率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定者10%以下。	○進路面談や進路学習を学年との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進学希望者への個に応じた学習指導内容を研究し、効果的な指導体制を確立する。	約8割の生徒・保護者が、本校の進路学習が役立っている・充実していると感じている。またほとんどの教員が、生徒個々の進路実現に向けて適切な時期に適切な内容で進路指導が行われており、進路実現のための効果的な指導が行われていると感じている。 学校の指導体制は、進学対策補習の強化、地元公立大学合格プロジェクト等の実施により、生徒の目指す第1志望の進路実現に向かっている。	C	生徒に対しては更に充実した取組を行い、同時に保護者の意識を高める方策を工夫する。 進路実現の結果はこれからであり、就職・進学指導とも指導の意識を高めて実施していく。
2 生徒指導の充実	○基本的な生活習慣とマナーの定着	○服装髪型再検査者数は1クラス平均8人前後である。 ○頭髪については、軽微な違反がほとんどである。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的な生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。	○全校朝会にて基準を明確に示した上で服装髪型検査を実施し、校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整える。	挨拶は約9割の生徒が心がけているが、服装、その他校則やマナーを守ることについては、一部の生徒に乱れがあると感じられる。頭髪服装再検査者数は、クラス平均5人以内は達成していない。	C	○頭髪服装検査に毎回不合格である生徒の指導を徹底する。
3 学習指導の充実	○豊かな人間関係づくりの推進	○メール・LINE等による友人とのやり取りで小さなトラブルが起き、不安感等を感じる生徒がいる。 ○周囲への配慮に欠けた言動により不快な思いを抱く生徒がいる。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身につけている。 ○周囲に配慮した言動に心がける。	○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持つよう学校祭、その他の行事を企画する。	5月に情報モラル講演会を実施。スマホ等の危険性について、リアルタイムな情報が得られたことは非常に有意義であった。また、事前におこなったアンケート結果では、本校生徒のSNS利用の実態は良くない状態であるとのことであった。評価アンケートでは、90%以上の生徒が情報通信機器のルール・マナーに気を付けているが、保護者は70%弱であり、意識の差が見受けられる。	B	生活満足度アンケートやいじめに関するアンケートの結果等も生かしながら、継続的に指導にあたる。
4 部活動の充実	○生徒会活動の充実	○部活動に所属していない生徒が1名となっている。全員加入に向けての指導が必要である。 ○日常生活やボランティア活動において生徒の主体的・積極的な行動が必要である。	○部活動全員加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の積極的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動加入指導を徹底する。 ○イワッツクラブの活動を充実させる ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。	部活動は、全員加入の状態である。評価アンケートの「部活動は社会人としての力(礼儀やマナー、忍耐力、人と関わる力など)を身につけるのにも役立っていると思う」と約8割の生徒が答えている。充実した部活動になっている。	B	全員加入・活発な活動を徹底する。
5 基礎学力の向上	○基礎学力の向上	○Iワッツ検定全教科の初級合格率は1年末で28%、2年末で41%であるが、3年末では100%を達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均50分程度であり、増加が望まれる。また、30分未満の者が31%である。家庭学習を習慣化する必要がある。	○Iワッツ検定全教科の初級合格者は1年末で30%、2年末で45%、3年末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化され、特に、30分未満の者が30%未満を達成する。	○Iワッツ検定合格者が向上するよう、教科と学年団で現状を共有し連携して補習等に取組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年団で面談指導を実施する。	○Iワッツ検定は、6月からの3年放課後補習や夏季休業中の1・2年基礎力強化補習により、夏休み明け時点での全教科初級合格率は、3年が95%、2年が53%であり、3年生は全員合格まであと5人となっている。 ○直近の家庭学習時間の平均は、平常時68分、考査期間151分であり、平常時が30分未満の生徒は約15%であった。昨年より平均学習時間は増加し、30分未満の生徒は減少したので、集中した家庭学習が望まれる。なお、保護者によるアンケート調査で「毎日1時間以上できている」に肯定的な評価は36%であった。	B	○夏季のIワッツ検定の合格状況を踏まえ、次回に向けて教科と学年団との連携について考察して取組んでいく。 ○「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。
6 学習指導の改善	○学習指導の改善	○教室のUD化および生徒の主体的な学びを支援した授業を心がけているが、生徒は苦手意識がぬぐいきれていない。自己の学びにおいて解決する力、決断する力の育成が必要である。	○生徒の授業に対する項目についての観点評価の肯定的な評価が85%を達成し、生徒が主体的に学ぶことを支援し、解決する力、決断する力が身につけている。	○AL等の校内授業研修会、公開授業月間を実施し、また他校の研究授業等への参観を行い、授業の質を高める。 ○生徒の視点に立ち、生徒が分かり易く、学ぶ意欲が向上するような授業を研究し共有を図る。	○今年度前半には、授業に関する研修会等の機会の設定がなかったが、職員の授業と教育環境のUD化や授業改善の工夫は、昨年より4ポイント上昇している。 ○わかりやすく、生徒が主体的に学ぶ授業の実施に向けて取り組んでいる。生徒の授業に対する観点評価は何れもほとんどの項目で昨年度より上昇している。特に「授業やIワッツ検定等とおして、昨年より学力が身についた」の設問の肯定的な評価が78%と上昇している。	B	○11月の公開授業月間の取組み内容の充実を図る。 ○学校評価(中間)の結果を職員間で共有し、授業展開の工夫の転機を図る。

平成 30 年 度 自 己 評 価 表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。</p>				
		<p>今年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。</li> <li>4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。</li> </ol>		
<p>4 保健・人権教育の充実</p>	<p>○個を大切にした教育環境の改善 ○生活満足度アンケート結果では、生徒は自己肯定感が高くなく、自分に自信が持てない傾向にある。 ○授業および教育環境のユニバーサルデザイン化（UD化）をさらに充実させる。</p>	<p>○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、授業および学校生活に関する質問への肯定回答が85%以上である。</p>	<p>○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリスト（仮称）を活用し、UD化や効果的な指導・支援を進める。</p>	<p>○担任や教育相談・特別支援教育担当等による個人面談、個別学習指導やソーシャルスキルトレーニング、1学年には仲間づくりのための構成的グループエンカウンター等を適宜実施し、生徒に応じたサポートに取り組んでいる。学校に行きたくないとしばしば感じている生徒は約12.3%おり、対応が必要な状況である。 ○評価アンケートでは、86.1%の生徒が「授業に集中しやすい環境」、また、85.5%の生徒が「授業のねらいと板書内容が明確」と回答しているが、「絵や写真等を用いてわかりやすい」は約69%と目標値には達していない。一方保護者の約80%が「一人ひとりを大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答している。</p>	<p>○各種アンケートや日々の生徒観察を通して、生徒の変化を敏感にキャッチし適切にサポートする。 ○生徒の自己肯定感を高めるヒントについて、教職員に向けた情報を発信していく。 ○岩美高版UDチェックリストを用い教職員各自の取組をセルフチェックする。</p>
<p>5 開かれた学校づくりの充実</p>	<p>○地域と連携した学校づくりの推進 ○第2学年で地域貢献と人材育成を目的として「イワツ・ミッション」を実施した。実際に現地に出向き、地域の協力者と連携し、活動を展開した。 ○体育・福祉の授業や部活動で地域との交流が行われている。</p>	<p>○生徒が、地域と連携し地域に貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。</p>	<p>○重点校として地域との連携をより深め、生徒の育成を図るべく、2年目となる「イワツ・ミッション」を着実に展開していく（内容の充実・時間数の確保・連携体制の確立）。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設ける（岩美町内・鳥取中央育英高・室戸高・環境大等）</p>	<p>○地域に貢献したいと考えている生徒が76.5%おり、ボランティア等機会を見つけて、地域行事に参加している。また、第2学年でのイワツ・ミッションの実施に向けて体制を整備している（活動内容の精査・班編成・協力大学生の確保等）。 ○イワツ・ミッションで顕著な成果をあげた班の代表の生徒については、地域創造ハイスクールサミット（鳥取中央育英高）に参加させることとしている。また、高知・室戸高との交流事業を11月上旬に計画している。世界ジオパークに位置する本校と室戸高との交流事業を充実させたい。</p>	<p>○イワツ・ミッションを充実させるよう活動を工夫する。 ○1年生のジオパーク学習の成果を生かした取組を検討・実施する。</p>

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
 (100%) (80%程度) (60%程度) (40%程度) (30%以下)